

【全国学力調査(令和7年4月 第6学年で実施)の結果より考察】

本校の6年生児童は、複数の考えを関連付けて考えたり、考えを通して自らの意見を深めたりすることができているが、その一方で、相手の話をよく聞いた上で、意図をもった質問をすることが苦手であることがわかった。今後、「自分はどのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように生かすことができるのか」や「どういった情報を相手から聞き出すと良いのか」などを明確にして聞く力を高めていく必要があることがわかった。そのため、各学年、「話すこと・聞くこと」を重点に授業改善プランを作成する。

【各学年の課題分析と授業改善案】

	「話すこと・聞くこと」の課題分析	授業改善案
6 年	・自分の考えをもつことはできているが、聞き手に分かりやすく話すことが難しいと感じている児童が多い。	・発言を積極的にできるよう、話し合いの前に情報を整理する時間を設ける。 ・情報を整理して、話す際の順序立てをすることの大切さについて指導する。
	・話し合いの前に自分の考えを整理させた際には、話し合いに積極的に取り組もうとする。	・目的や条件などを明確にし、話し合いをする意義や必然性を示す。 ・道徳など発言する児童が比較的多い教科において、発言したことを価値付ける。
	・話を聞くことに対しての苦手意識をもっている児童が少ない。	・3人1組での話し合いがしやすい座席の工夫を今後も継続し、トリオやグループで話し合う活動を積極的に取り入れる。
	・友達の発言を聞いて、話し合いを深めるために質問をしたり、話を広げたりすることに課題がある。	・話し合いをする目的を明確にし、目的を達成するために必要な情報が何かを考えながら聞く力がつくようにする。
5 年	・一問一答の問題であれば、抵抗なく発表をすることができる児童が多い。	・インタビューをして相手のことをさらに詳しく知るという内容の学習で行ったように、「何のために」という目的を明確化する。
	・自分の考えを聞かれたり、明確な答えが定まっていなかったりする場合は、言葉に詰まってしまう傾向がある。	・「主張－理由－具体例－まとめ」といった、構成を意識した型を活用し、最初はカードやメモ、図にまとめてから話す練習を重ね、最終的には、メモを用いず自分の言葉で話せるようにする。
	・友達の意見を聞くより、まず自分の考えを伝えたいという思いが先行してしまう児童もいる。	・聞き方の視点を示し、話し手の目的や意図に応じた内容を捉えながら、自分と相手の考えを比較し自分の考えをもてるようにする。
	・グループでの話し合いや、ICTを使った発表に抵抗なく、意欲的に取り組める児童が多い。	・ICTを活用し、話し合いや発表の様子を録音・録画して自分や友達の話し方、聞き方を振り返るようにする。
4 年	・調べたことを発表する経験を積んでいるため、話すことはできるが、自分が伝えたいことを聞き手に伝わるよう、順序立てて、詳しく話すことが苦手である。	・朝の会のスピーチでは、5W1Hを意識して話すよう指導する。 ・構成メモを作って、聞く人に大事なことが伝わるように、間の取り方、資料の見せ方を工夫して話す機会を設ける。
	・発言を積極的にする児童がいる一方、自分の考えはもっているが、自信がなく挙手できない児童もいる。	・道徳や学級会など、多様な考えが出しやすい活動では、発表できたことを担任が褒めたり、児童同士で認め合ったりして、自信を付けさせるようにする。 ・発表原稿を用意させるなど、話す内容の整理、準備をすることで安心して話せるようにする。少人数で話す機会を多く設けることで、自信を付けて話せるようにする。
	・話し手を見て、話の内容を最後まで集中して聞けなかったり、情報量が多いと内容を聞き落としてしまったりする児童が多い。	・「聞き取りメモのくふう」で学んだことを全校朝会の校長先生の話などでも取り入れ、要点を短い言葉でメモをし、話し手の内容を正しく聞き取る経験を積んでいく。 ・よい「話し方」「聞き方」のポイントを視覚的に示し、常に意識させるようにする。

3 年	・自分の考えをもっているが、相手に伝えることが苦手な児童が多い。	・自分の考えに自信をもてるように、児童の考えを教師が価値付ける機会を増やしていく。 ・児童が発表する場面を他教科や朝の会、帰りの会でも取り入れて、発表する経験を積んでいく。 ・発表する場合、ペア→グループ→学級と少しずつ場を広げていくような指導計画を立てる。 ・動画を活用し、児童が自分自身の発表を振り返る時間を設定する。
	・出された意見について、質問したり、考えを足したりして考えを広げるのは難しい。	・国語や学級会などでは、話し合いの目的を明確に児童に示し、目的を意識しながら質問したり、考えを足したりしながら話し合いを進める経験を積んでいく。
	・話を聞く場面では、話の内容のどこが大事な部分なのか、捉えることが苦手な児童が多い。	・国語の時間に聞き取りトレーニングの時間を取り入れる。
2 年	・発表をしたいという意欲は高いが、聞き取りやすい声の大きさを相手に正しく伝わるように話すことは苦手な児童が多い。	・「こえのものさし」の掲示に注目させ、「3の声で発表しよう」など、日頃から声の大きさや速さを意識できるようにする。
	・伝えたいことを順序立てて詳しく話すには、具体物や視覚支援、教師が補足をするのがまだ必要である。	・朝の会でスピーチタイムを取り入れ、身近なことや経験したことから話題を決めて話す活動を行う。話す順序を考えて大事なことを詳しく伝える体験を積んでいく。
	・話を最後まで聞いたり、自分とは違う意見を受け入れたりすることが苦手な児童もいる。	・聞き方のめあてを掲示し、よい聞き方の意識付けをする。
	・友達の話に関心をもって聞くことはできるが、内容について質問すると、聞き落としてしまっていることが多い。	・スピーチを聞いて、質問や感想を言う場面を設定し、話し手が伝えたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えた感想を言うことができるようにする。 ・定期的な学級会を実施し、話し合いの約束に沿って友達の意見をよく聞いたり、話をつなげて自分の意見を言ったりできるようにする。
1 年	・発表への意欲は高いが、相手に聞こえる声で話すことが苦手な児童が多い。	・「こえのものさし」を活用し、日頃から声の大きさを意識させる。
	・順序立てて、相手に伝わるように話すためには、たくさんの経験を積んでいく必要がある。	・話型を提示したり、ワークシートを工夫したりする。 ・ペアやグループで話し合う経験を積んでいく。
	・教師や友達の話最後まで聞けずに、要点を聞き落としていることがある。	・姿勢や「ききかためいじん」の掲示を意識させる。 ・スピーチを聞いて、質問や感想を言う場面を設定する。
す ま い る	・聞く姿勢の保持や注意の持続が難しい児童がいる。	・体育や自立活動で体幹を鍛える運動を行う。 ・どこに注目して聞けばよいか視覚的に示す。
	・話し手が話す内容の理解が難しいときがある。	・文字と絵を組み合わせ視覚的に分かりやすく提示することで、イメージがもてるようにする。
	・話し手の話に興味関心をもって聞くことが難しい児童がいる。	・児童の興味関心に沿って課題設定を行い、教師や友達とのやりとりを通して楽しいと思える経験ができるようにする。 ・家庭と連携したり読み聞かせの機会を増やしたりすることで、体験や経験の幅を広げ、興味関心を広げる。
	・話したい気持ちがあり意欲的ではあるものの、何を話してよいか分からず、受け身になりがちな児童がいる。	・大事なことを聞き取れるように、1対1での活動から1対複数へとステップで会話のやりとりを行う機会を作り、自信をもたせる。 ・「話すポイント」を基に、聞いたことに対して質問をする活動を繰り返し行い、会話のやりとりを楽しみ思えるようにする。